

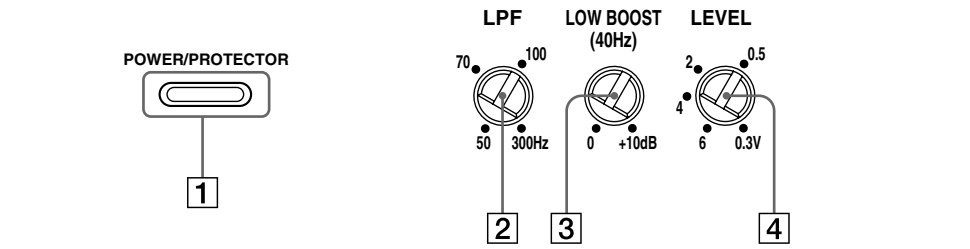
主な特長

- 最大出力1,600Wの余裕あるパワー（2Ω負荷）のサブウーファー専用アンプ
- ラインアウト端子を持たないカーオーディオのスピーカー出力をダイレクトに接続することができるハイレベルインプットを搭載
- ローパスフィルターおよびローブースト回路を内蔵
- アンプ内部の温度上昇やスピーカー保護のための保護回路内蔵
- サブウーファーを並列に接続するための2つのスピーカー端子
- クラスD*¹（Class D Technology）回路
- 安定した電源を供給する高効率パルス電源*²を採用

*¹ クラスD（Class D Technology）
クラスD技術は音楽信号を高速のパルス信号へ変換して高効率で増幅する方式です。また、熱放出が少ない特長があります。

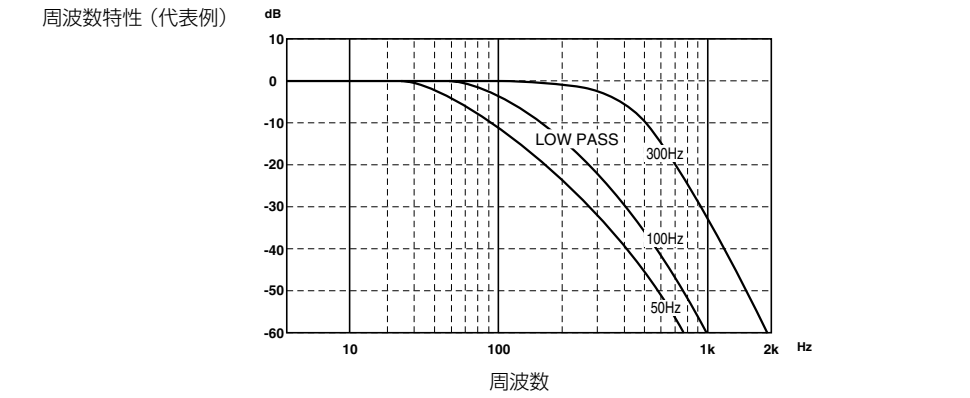
*² パルス電源
DC12Vのバッテリー電源を半導体スイッチによって高速パルスに変換し、それをパルストランスで昇圧、さらに⓪電源にふり分けたあと再び直流（DC）に戻すコンバーターのことで、小型軽量で、低出力インピーダンスを有する特性をもっています。

各部の名称と働き

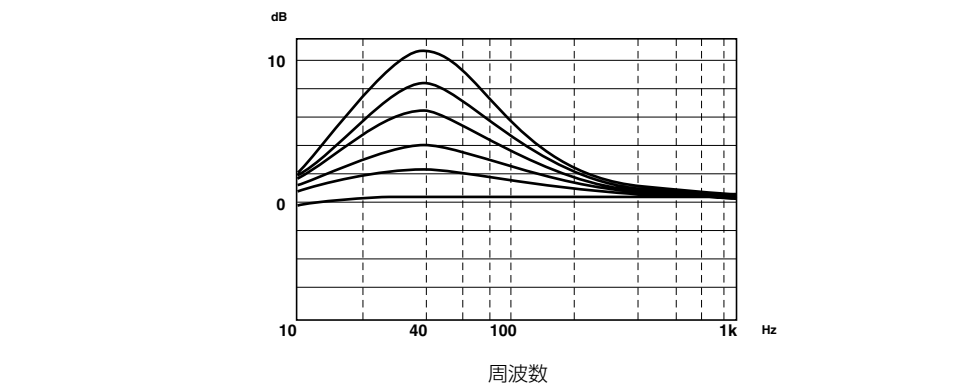


1 POWER（電源）/PROTECTOR（保護回路）インジケータ
本機の動作中、緑色に点灯します。
PROTECTORが作動しているときに緑から赤に変わります。PROTECTORが作動した場合には「故障かな？と思ったら」をご覧ください。

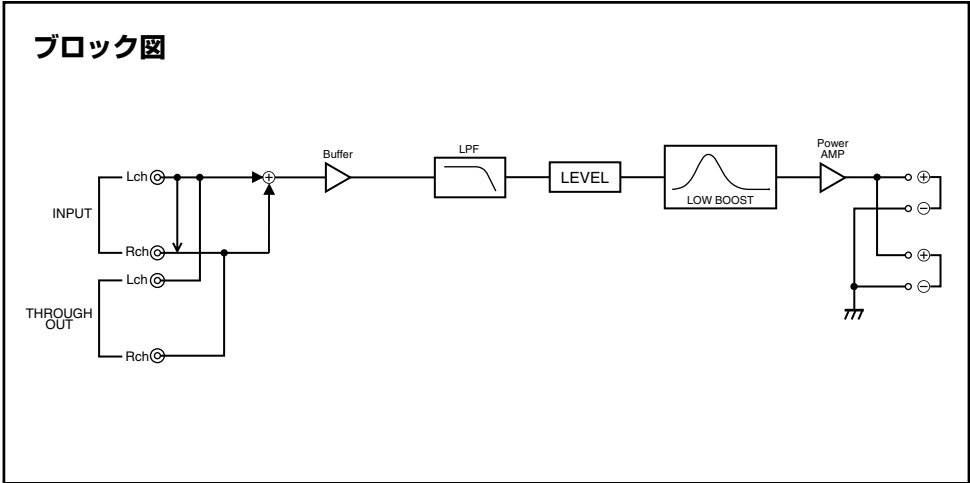
2 カットオフ周波数設定つまみ（フロント/リア）
ローパスフィルターをかけた場合のカットオフ周波数（50～300Hz）を設定します。



3 LOW BOOSTつまみ
40Hz前後の音域を最大10dBまで増幅することができます。



4 LEVELつまみ
このつまみで入力レベルを調節します。入力レベルが小さい場合はMAXの方向に、大きい場合はMINの方向につまみを回してください。



使用上のご注意

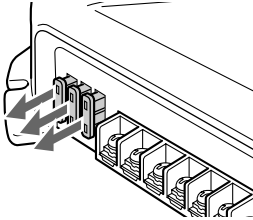
- 窓を閉めきった自動車を直射日光下に放置すると、車内は相当な高温になります。このようなときは、車内の温度を下げてからご使用ください。
- 次のような場合には、出力トランジスタやスピーカーを保護するため、アンプ内部の保護回路が働き、スピーカーから音が聞こえなくなります。
 - アンプ内部の温度が異常に高くなった場合
 - 異常が発生してDC電圧が発生した場合*
 - 出力端子がショートした場合*

このような場合には、すぐに接続してある機器の電源を切り、異常の原因をお調べください。温度上昇が原因と考えられる場合は、しばらく放置して本機の温度を下げてからお使いください。

●弱ったバッテリーで使用しないでください。本機の性能は電源の状況に左右されるため、十分に性能を発揮できません。

ヒューズについて

本体にあるヒューズが切れたときは、すべてのヒューズ、配線などをチェックして必ず原因を確かめ、適切な処置をしてください。その後、本体やヒューズに記してある規定容量（アンペア数）のヒューズにすべて交換してください。判断が難しい場合は、お買い上げ店にご相談ください。



故障かな？と思ったら

症状	原因（処置）
POWER/PROTECTORインジケータが点灯しない。	ヒューズが切れている。→ すべてのヒューズを交換する。 アースコードが接続されていない。 → 車体の金属部にしっかり接続する。
	本機のリモート端子への入力電圧が発生していない（または低い）。 ●接続しているカーオーディオの電源が入っていない。 → 電源を入れる。 ●複数のアンプでシステムを組んでいる。→ リレーを備える。 バッテリーの電圧が適切であるか（10.5～16V）確認する。
POWER/PROTECTORインジケータの点灯が緑色から赤色に変わる。 本機の温度が異常に上昇している。	スピーカーおよびスピーカー配線がショートしている。 → ショートの原因を取り除く。 ●適合インピーダンスのスピーカーを使用する。 → 2～8Ω（トータル） ●風通しの良い場所へ移設する。
オルタネーターの雑音が入る。	電源コードがRCAピンコードに近い。→ RCAピンコードから離す。 アースが不十分である。→ 車体の金属部にしっかり接続する。 スピーカーの端子が車体に接触している。→ 車体から離す。
音がとぎれる。	サーマルプロテクターが作動している。→ 音量を小さくする。
音が小さい。	レベル調節が正しくない。→ LEVELつまみを回して調節する。

以上の処置を行っても効果が見られないときは、接続に問題があるか、故障と考えられます。お買い上げ店、お客様ご相談センターまたはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

回路方式	クラスD（Class D Technology）回路
入力コネクタ	パルス電源 RCAピンジャック、 ハイレベルインプット
出力コネクタ	スピーカー端子
適合インピーダンス	2～8Ω
最大出力	1,000W（4Ω負荷） 1,600W（2Ω負荷）
定格出力（14.4V）	500W（20～300Hz、0.2%THD、 4Ω負荷） 900W（20～300Hz、0.6%THD、 2Ω負荷）
周波数特性	5～300Hz（ ± 3 dB）
高調波ひずみ率	0.06%以下（100Hz、4Ω負荷）
入力感度	0.3～6V（RCAピンジャック） 1.2～12V（ハイレベルインプット）
ローパスフィルター	50～300Hz、-12dB/oct
ローブースト	0～10dB（40Hz）
電源	DC12Vカーバッテリー（マイナスアース）
電源電圧	10.5～16V
消費電流	90A（2Ω定格出力時）
リモート消費電流	1mA
外形寸法	約 347 × 57 × 339mm （幅/高さ/奥行き） 約 3.8kg（付属品含まず）
質量	
付属品	取り付けビス（5）、ハイレベルインプットコネクタ（1）、保護キャップ（1）、取扱説明書（1）、ソニーご相談窓口のご案内（1）、保証書（1）
別売りアクセサリ	RCAピンコード（2m）RC-64、 RCAピンコード（5m）RC-65

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは
お買い上げ店、お客様ご相談センターまたは添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。くわしくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではカーオーディオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、お客様ご相談センターまたはサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

警告表示の意味

取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

警告

火災

感電

下記の注意を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

取り付けはお買い上げ店に依頼する

本機の実装には専門知識が必要です。万一、ご自分で取り付けるときは、「取扱説明書」の説明に従って、正しく取り付けてください。正しい取り付けをしないと、火災や感電の原因となります。

本機はDC12Vマイナスアース車専用です

大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。

禁止

24ボルト

運転操作や車体の可動部を妨げないように取り付ける

運転の妨げになる場所、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をする、事故や感電、火災の原因となります。

- ネジやシートルールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。
- コード類はまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

禁止

取り付け、接続作業をするときには、必ずイグニッションキーをOFFにするか、キーを抜いておく

イグニッションキーをONにしたまま作業をすると、バッテリーあがりや、ショートによりヒューズ飛びや発煙などの原因となります。

ステアリングやブレーキ系統、タンクなどにある車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用するとき、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

パイプ類、タンク、電気配線などを傷つけない

火災の原因となります。車体に穴を開けて取り付けるときは、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認してください。

禁止

分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ると、リード線の電流容量を超えてしまいます。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、必ず電源コードのヒューズケースまたは本体に記された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。

禁止

取り付け作業前にバッテリーのアース線をはすず

バッテリーのアース線をはすざないとショートによる火災や感電の原因となります。

注意

下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。

安定した場所に取り付ける

振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。

禁止

本機の通気口や放熱板をふさがない

通気口や放熱板などをふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

SONY®

3-251-200-01 (1)

モノラルパワーアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

警告 本機は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故の原因となります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

XM-D1000P5

© 2003 Sony Corporation Printed in Korea

警告 安全のために

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

- 運転者は走行中に操作をしない。
- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞く。

定期的に点検する

1年に1度は、端子のネジにゆるみがないか、電源コードに傷みがないか、接続部分が車体と接触していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口修理をご依頼ください。

変な音やにおいがしたり、煙が出るなどの異常が起きたら

- 安全な場所に車を止める
- 電源を切る
- お買い上げ店またはソニーサービス窓口修理を依頼する

商品の修理、お取り扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● <http://www.sony.co.jp/SonyDrive/>

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル ☎0570-00-3311
(全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は...03-5448-3311
(ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください)

● FAX 0466-31-2595

受付時間 : 月~金 9:00~20:00 土・日・祝日 9:00~17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

取り付けと接続

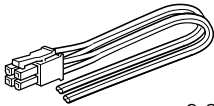
取り付け部品の確認（付属品）

① 取り付けビス
Φ5×15



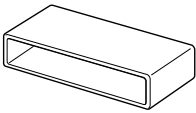
(×5)

② ハイレベルインプットコネクター



0.2m

③ 保護キャップ



取り付ける場所について

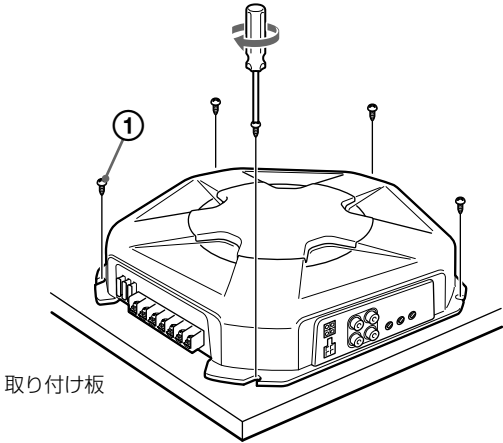
- 本機は、トランクルームまたはシートの下に水平に取り付けてください。
- 本機に直射日光やヒーターの熱が当たる場所には設置しないでください。
- カーベットの下の放熱効果が著しく減少しますのでお避けください。
- 本機にはDC-DCコンバーターを使用していますので、ラジオやアンテナの近くに取り付けると、ラジオやテレビ放送の受信に障害をおよぼすことがあります。なるべく離れた位置に設置してください。

使用スピーカーについて

- スピーカーの⊖側を車のシャーシなどに接続したり、スピーカーの⊖側どうしを接続したりすると故障の原因になります。
- 十分な許容入力を持つスピーカーをお使いください。このアンプは大出力が得られますので、許容入力の小さいスピーカーを使用すると、アンプの性能が充分に発揮されないばかりでなく、スピーカーを破損することがあります。
- インピーダンス2～8Ω（トータル）のスピーカーをお使いください。
- 本機のスピーカー端子にアクティブスピーカー（アンプ内蔵のスピーカー）を接続しないでください。スピーカーを破損する恐れがあります。

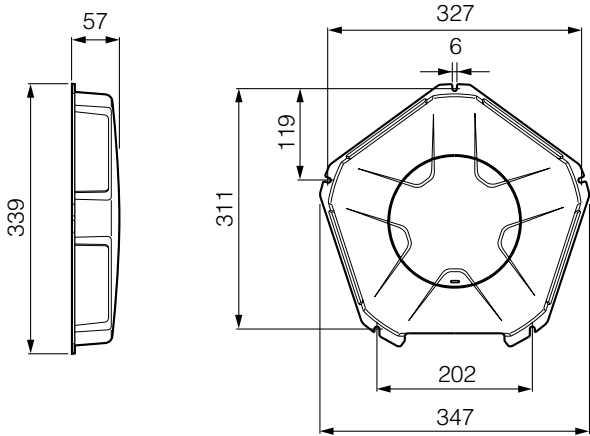
取り付けかた

- 十分な厚み（15mm以上）と強度をもつ取り付け板をご用意ください。

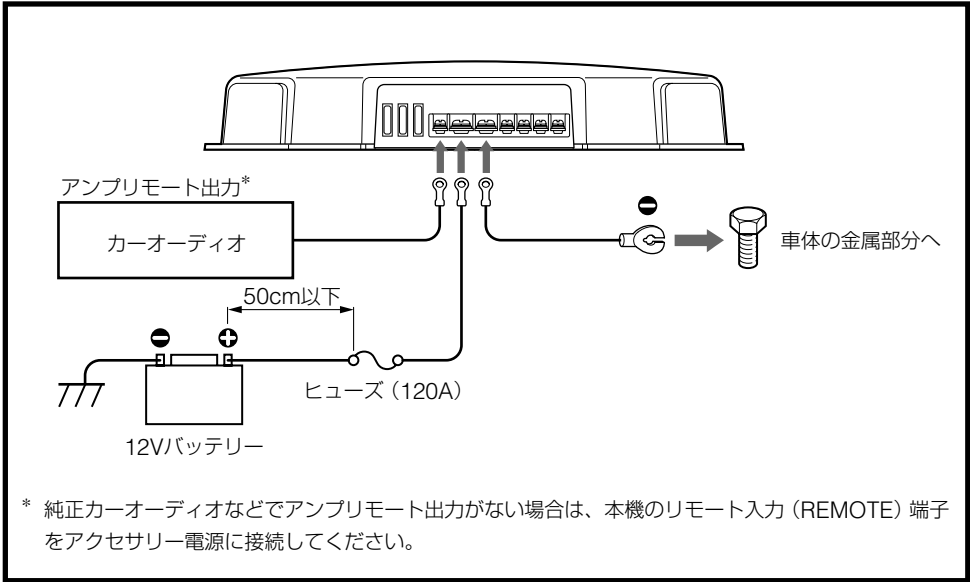


本機を取り付け板にあて取り付け位置を決め、穴の位置に印をつけます。次に、印をつけたところに直径3mm以内の穴をあけ、ビス①を使って本機を取り付け板に固定します。

参考 [単位：mm]



電源コードの接続



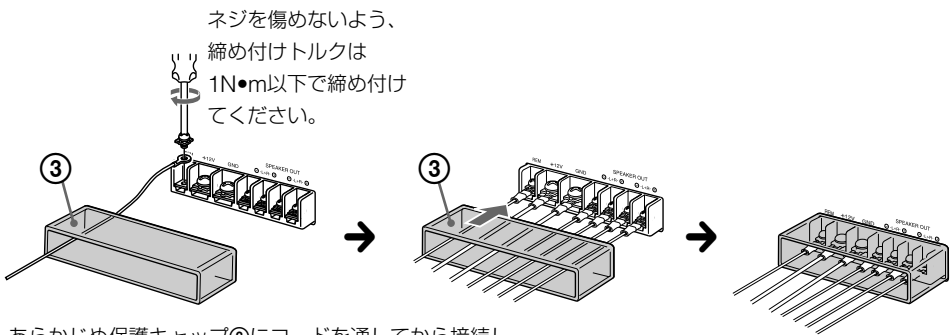
* 純正カーオーディオなどでアンプリモート出力がない場合は、本機のリモート入力（REMOTE）端子をアクセサリ電源に接続してください。

接続する前に

- この取扱説明書（取り付けと接続）に記載されている取り付け、接続先の機器は、付属品を除きすべて別売り品（市販品）です。

端子の接続

下図のようにコードを接続してください。



あらかじめ保護キャップ③にコードを通してから接続し、キャップを取り付けてください。

ご注意

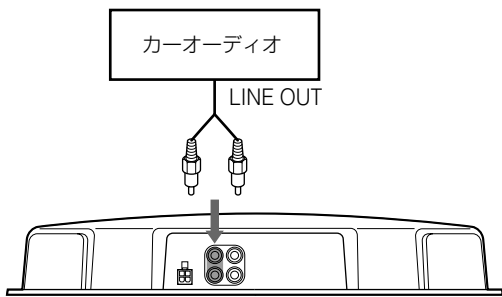
- 電源コードはすべての接続を済ませてから、一番最後に接続してください。
- パワーアンプのアースコード（本機のGND端子に接続するコード）は車の金属部分に確実に接続してください。確実に接続しないと、ノイズ、故障の原因になることがあります。また（+12V）端子側と同等の太さの配線コードを使用してください。
- カーオーディオのリモート出力コードを本機のリモート入力（REMOTE）に接続してください。カーオーディオにアンプリモート出力がない場合は、車のアクセサリ電源と本機のリモート入力（REMOTE）端子を接続してください。
- 車のバッテリーから直接電源をとる（車のバッテリーから直接、本機の電源端子（+12V）に配線する）場合、使用する配線コードは太さ4ゲージ（AWG-4、断面積22mm²）以上のコードを使用し、バッテリー端子から50cm以内に必ずヒューズ（120A）を配置してください。
- 入出力コードと電源コードを近づけて配線するとノイズが出ることがありますので、できるだけ離して配線してください。
- 本機はハイパワーアンプのため、車に既設のスピーカーコードを使うと性能が充分に発揮されないことがあります。

取り付けと接続が終わったら

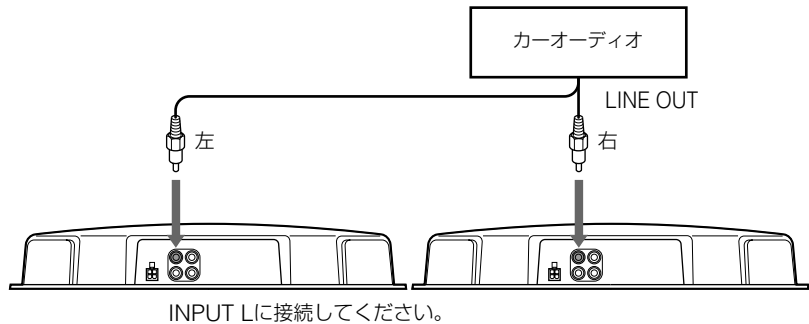
- 取り付けや接続に誤りがないか、もう一度確認してください。
- ブレーキランプやライト、ホーン、ウインカーなどすべての電装品が正しく動作することを必ず確認してください。
- カーオーディオに電源が供給されない場合は、接続をご確認ください。

インプット接続

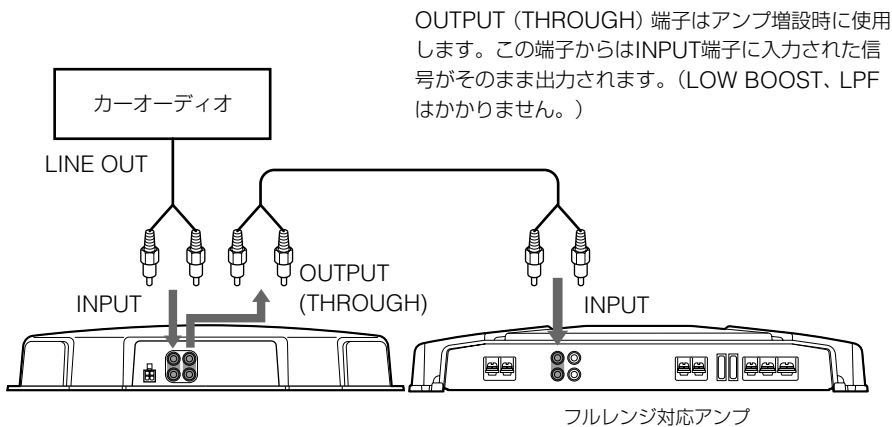
A ラインインプット接続



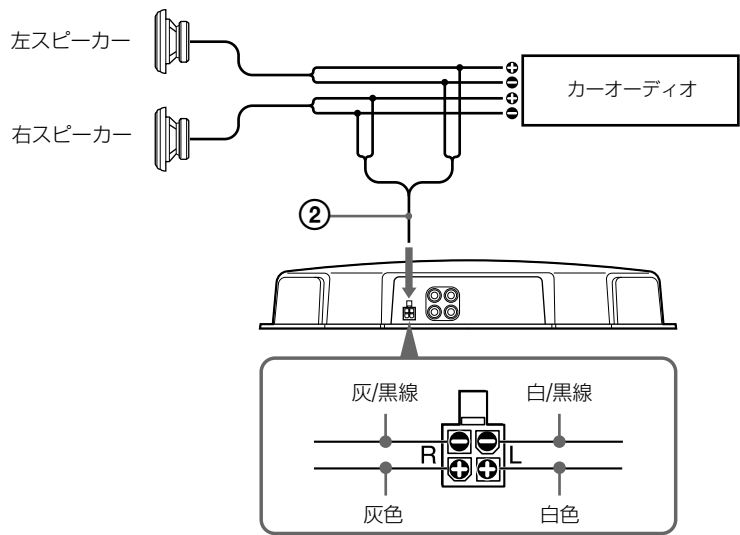
B ライン入力接続（スピーカー接続③の場合）



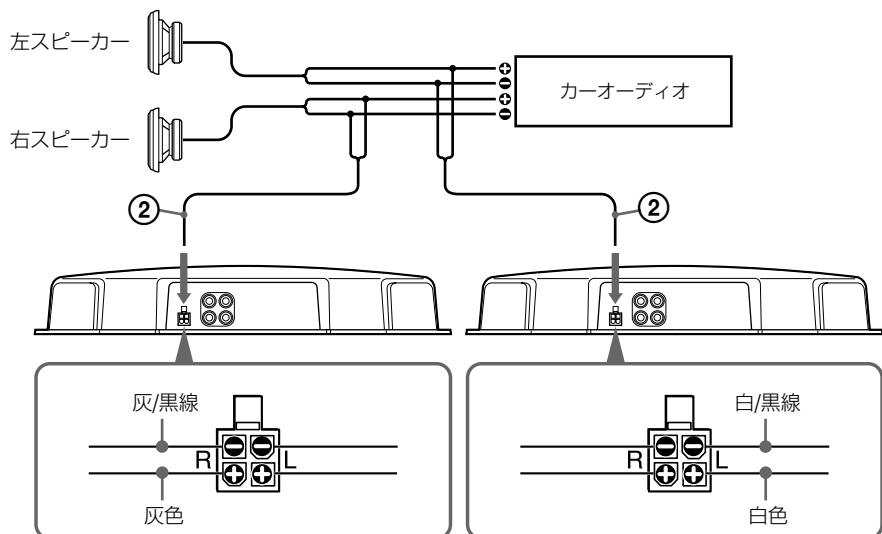
C ライン入力接続（スピーカー接続4の場合）



D ハイレベルインプットコネクタ接続

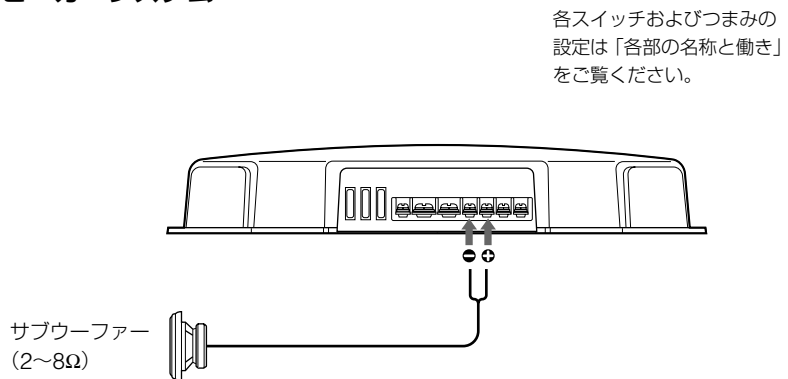


E ハイレベルインプットコネクタ接続（スピーカー接続**B**の場合）

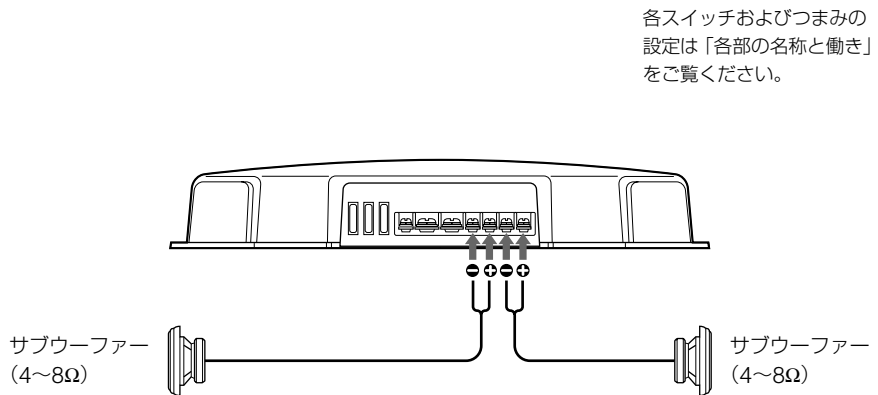


スピーカー接続

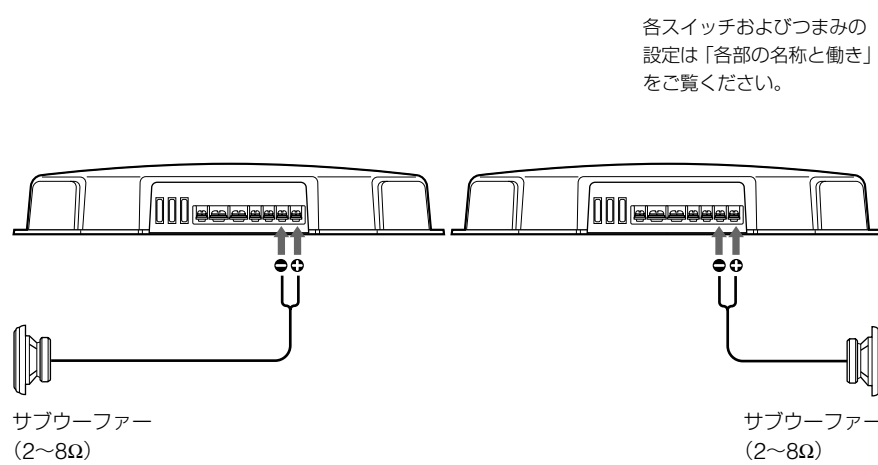
1 1スピーカーシステム



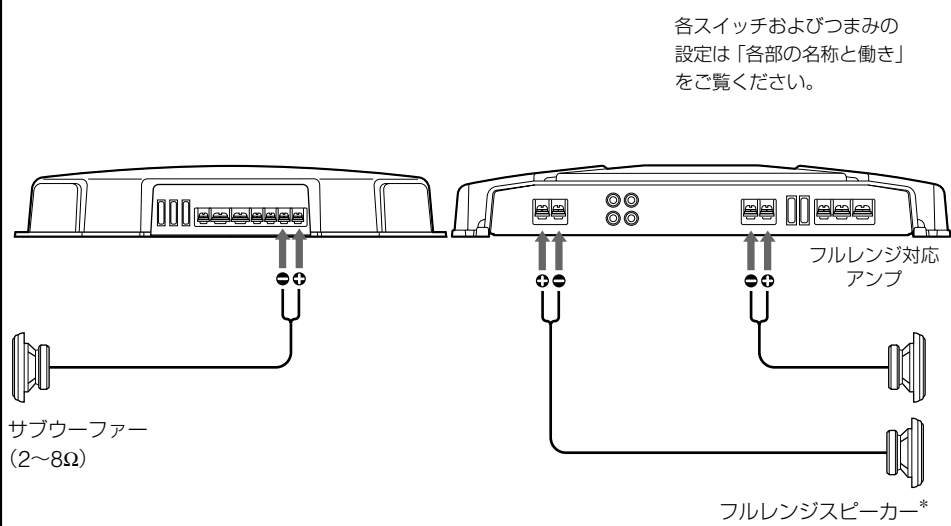
2 2スピーカーシステム



3 2アンプシステム（インプット接続BまたはCの場合）



4 2ウェイシステム（インプット接続Cの場合）



本アンプ1台あたりにサブウーファーを2つ接続する場合はスピーカー接続**2**を参照してください。

* 適合インピーダンスは組み合わせるアンプの指示に従ってください。